

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

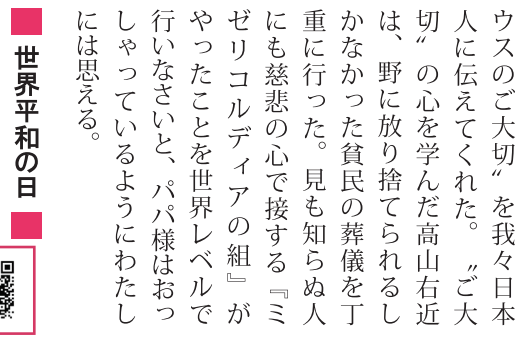
30年位前神学校での授業中に教授から、「最も苦悩するカトリック信者は誰だと思いませんか？」という質問が投げかけられたことがあった。神学生たちは誰も答えられなかったが、教授からは「それはパパ様(ローマ教皇)です」という答えが返ってきた。

2019年に来日された教皇フランシスコは、国内では行く先々で大歓迎を受けたが、他の国では必ずしもそうではないようだ。聖職者による児童虐待やミッションスクールでの現地住民子女への虐待などの責任を問う厳しい非難の声が教皇に向けられる。自分が直接やったことではないのにカトリック教会で起きたことすべての責任が教皇にはのしかかるのだ。カトリック信者の誰もが最も引き受けたくない奉仕職、それが教皇職であらう。

その教皇フランシスコは今年の世界平和の日のメッセージで、カトリック教会だけでなく世界を直面する2つの大きな危機、すなわち、新型コロナウイルスによるパンデミックとウクライナ戦争について言及する。

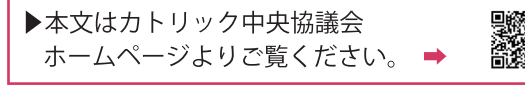
民族と国家が兄弟愛に生きることとしかないと断言される。たしかに、先進国の人々がコロナワクチンを5回接種したとしても、最貧国で1回もワクチンを打てない人びとの間でコロナが蔓延し、そこで新たな変異種が生まれればそれは先進国にまた伝染する。自国だけを有利にという発想が、世界全体をさらなる悪循環に陥れてしまうのだ。

「だれも一人で救われることはない。COVID-19からの再起をもって、皆で平和への道を歩む」



教皇は、昨年新たに始まったコロナ禍以上の脅威であるウクライナでの戦争も同じ基準で見ている。わたしたちが自分の属する国家の利益のみ、つまりわが身の争の大きな原因となるのだ。戦国時代の終わりに日本にやってきたフランシスコ・ザビエルは、血で血を洗う弱肉強食の時代に隣人愛「デウスのご大切」を我々日本人に伝えてくれた。「ご大切」の心を学んだ高山右近は、野に放り捨てられるしかなかった貧民の葬儀を丁寧に重にした。見も知らぬ人にも慈悲の心で接する『ミゼリコルディアの組』がやったことを世界レベルで行いなさいと、パパ様はおっしゃっているようにわたしには思える。

■世界平和の日
教皇パウロ六世は1968年1月1日、ベトナム戦争が激化するなか、平和のために特別な祈りをささげるよう呼びかけました。それ以来、全世界のカトリック教会は毎年1月1日を「世界平和の日」とし、戦争や分裂、憎しみや飢餓などのない平和な世界が来るように祈っています。

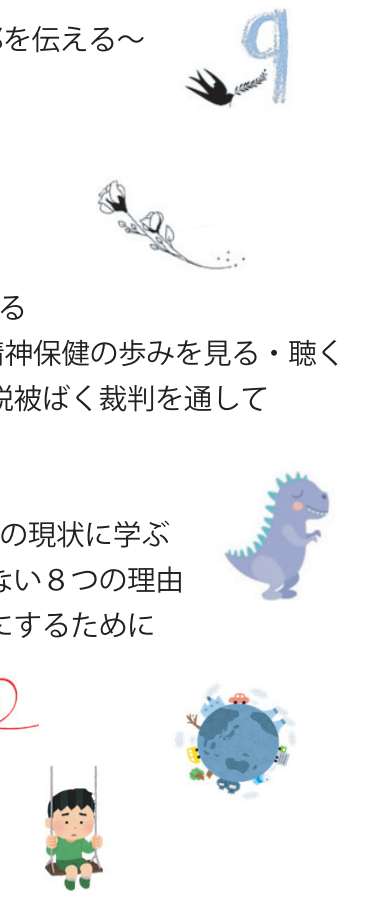


2021年「正義と平和大阪大会」分科会録画(動画)限定公開中

大会で開催された分科会(1~30、特別プログラム)の録画(動画)を編集したものを順次限定公開しています。著作権に抵触する部分や個人情報保護に抵触する部分は削除・編集しています。今後も準備が完了した分科会から、順次公開をします。教会のグループ学習等でご活用ください。視聴方法や申し込みはこちら ▶▶▶

カトリック大阪教区ホームページ内「正義と平和大阪大会」のバナーをクリックしてください。

- 1: あなたへ繫げたい平和の誓い ~出生地門真市から憲法9条発案者 幣原喜重郎を伝える~
- 3: 沖縄の米軍基地を考える
- 5: 教会とエイズ・コロナ・LGBT
- 6: 教会内のハラスメントはなぜ起きつづけるのか -小さな気づきから大きな一歩へ-
- 7: 心の病と共に働き祈る
- 8: 日本に逃げてきてくれた難民たちと福音を生きる
- 9: 写真展 闇から光へ 知られざる沖縄戦後史~精神保健の歩みを見る・聴く
- 10: 人権問題から見た福島第一原発事故 子ども脱被ばく裁判を通して
- 11: 子どもの貧困「西成高校の取り組み」
- 12: ゴジラから見た正義と平和
- 14: 【社会の底辺に置かれた人々が生きる釜ヶ崎】の現状に学ぶ
- 15: 知っていましたか?いま地層処分してはいけない8つの理由
- 20: みんなの政治、みんなが政治、社会をすてきにするために
- 21: よりそいのヒント
- 22: 日本の労働者
- 26: 「拉致」を知り、共に祈る
- 29: 地球を大切にするにはどうすればいいか?
- 30: 子どもたちを誰一人取り残さない



自主上映会をしませんか

高賞脩監督 最新ドキュメンタリー **ワタシタチハ ニンゲダ!** 外国人学校に対する官製ヘイト、技能実習生、難民、入管の実態など外国人差別の本質にせまる。2022年 114分

映画上映のご紹介

3.11 東日本大震災を前に **「生きる」** 84人が犠牲になった宮城県石巻市立大川小学校津波訴訟の遺族を追った10年の記録映画。『あの日、何があったのか』『事実と理由が知りたい』親たちの強い思い。弁護団はたった2人の弁護士。親たちが「わが子の代理人」となり裁判史上、画期的な判決に。<第七芸術劇場ホームページより> **第七芸術劇場にて 2/25 より上映予定** 〒532-0024 大阪市淀川区十三本町1-7-27 サンポードシティ 6F TEL: 06-6302-2073 MAIL: nanagei@nanagei.com



自主上映のお申込み

